

経営比較分析表（令和4年度決算）

石川県加賀市 加賀市医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	25	対象	ト透訓	救 臨 災
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中稼病院	看護配置
63,486	26,629	-	第2種該当	7：1

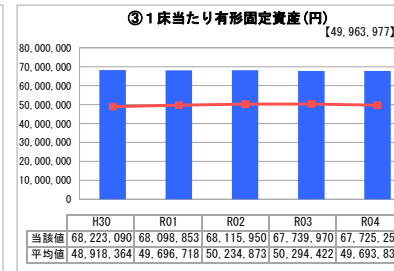
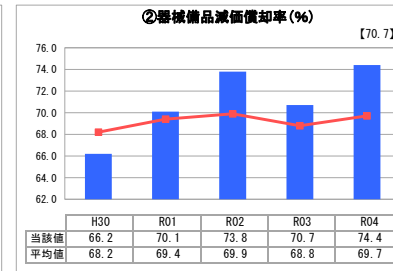
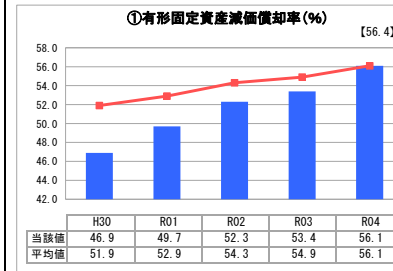
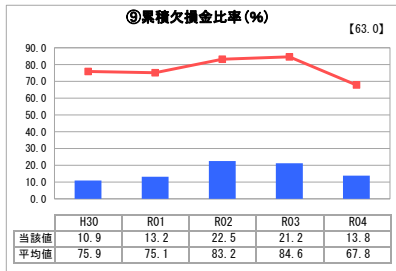
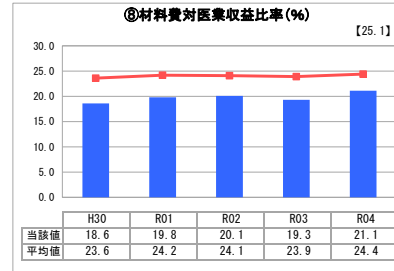
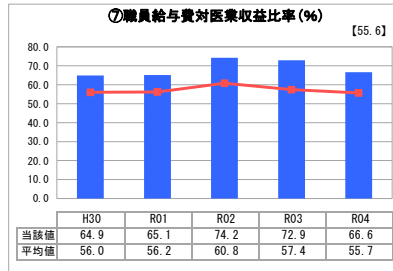
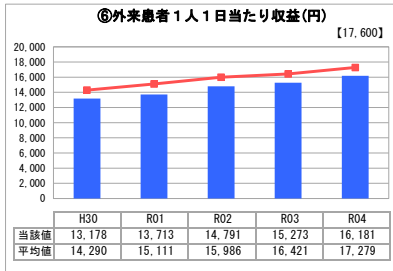
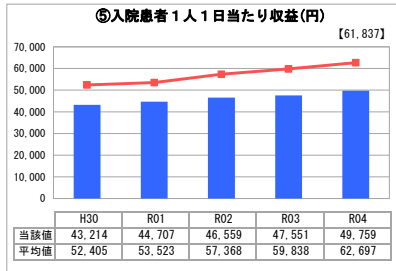
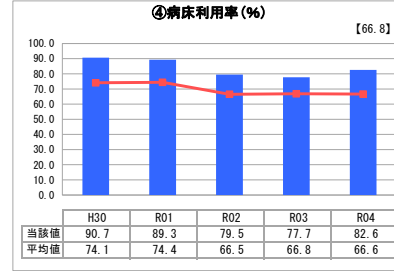
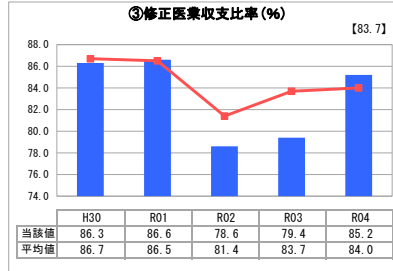
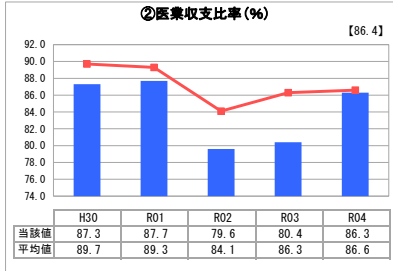
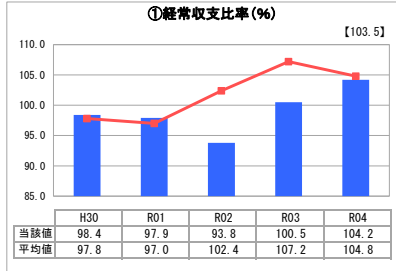
※1 ト…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（総核）
300	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	300
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
276	-	276

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
-	類似病院平均値（平均値）
[]	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）		
機能分化・連携強化 (従来の可搬・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度
-	-	-

I 地域において担っている役割

- 市内唯一の急性期病院として救急搬送を断らない体制の維持・継続
- 医療従事者育成環境の充実
- 周産期の受入促進（市内唯一の分娩施設）
- 地域包括ケアシステム構築に寄与する在宅復帰支援の充実と地域連携の推進（地域連携センターつむぎ、訪問看護ステーションりんく）
- がん治療体制の充実
- 認知症高齢者の増加に向け行政と連携した活動の促進
- 新型コロナウイルス感染症患者対応
- 地域災害拠点病院としての医療救護活動

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は医業収益の増加等により100%を上回っている。修正医業収支比率は前年比5.8ポイント上昇しているものの、依然として補助金収入に依存している。病床利用率は、新型コロナウイルス感染症用病床を1単位確保しつつも前年比4.9ポイント上昇している。入院・外来患者1人あたりの収益が類似病院の平均値より下回る状況が続いており、安定的収益確保に向けて改善が必要である。

2. 老朽化の状況について

平成28年4月に2つの病院を統合し、移転、新築開院した。統合新病院に加え、旧病院の減価償却が進んだ結果、有形固定資産償却率が平均値と同程度になった。また、旧2病院分の資産を有しているため、1床当たり有形固定資産が平均値を上回っているが、将来的な減価償却費の増大につながるよう、長期的な投資計画に基づいて適切な更新を図る必要がある。

全体総括

11月に新型コロナウイルス感染症の院内クラスターが発生した。救急搬送や新規入院患者の受け入れ停止、発熱外来・濃厚接触者外来の停止等を余儀なくされたが、診療制限を最小限にしたことで医業収益への影響を抑えることができ、2期連続の黒字計上となった。今後も地域の基幹的な急性期病院として必要な医療機能や環境を整備し、より一層経営の効率化を図っていく。

※1 類似病院平均値（平均値）]については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。